

令和 5年 9月 29日

報道機関 各位

— 『医療的ケア児』の総合的な支援を目指して— 第62回富山県小児保健学会を開催

第62回富山県小児保健学会を10月1日(日)13:00から富山大学杉谷キャンパス講義実習棟1階大講義室において開催しますので、取材方よろしくお願いたします。

今回は、一般演題に加えて「こどもたちのWell-being:医療的ケア児等の総合的な発達を後押しする支援」をテーマとしてシンポジウムを行います。

医療的ケア児とは、病院のNICU(新生児特定集中治療室)等に入院して退院した後に、引き続き人工呼吸器や胃ろう等を使用し、たんの吸引や経管栄養などの医療的ケアが日常的に必要な児童のことです。医学・医療の進歩を背景として、全国の医療的ケア児は増加しており、推計で約2万人とされます(厚生労働省)。

令和3年9月に「医療的ケア児及びその家族に対する支援に関する法律」が施行され、国や地方自治体の責務が明文化され、各地方自治体が地域の医療施設や医療従事者等と連携して、医療的ケア児とその家族への支援が実施されるようになりました。

富山県では、法律の公布に先駆けて、「多職種連携 富山県小児医療的ケア実技研修会」を約10年前から開催し、現在までに約300名が研修を受けています。今回のシンポジウムでは、医療的ケア児に関する各種取り組みや今後の課題について考えます。

【本発表資料のお問い合わせ先】

富山大学学術研究部医学系 准教授 桶本 千史

TEL : 076-415-8838 FAX : 076-434-5187

E-mail : okemoto@med.u-toyama.ac.jp

第62回富山県小児保健学会

こどもたちのWell-being

—医療的ケア児等の総合的な発達を後押しする支援—



日時

2023年
10月1日(日)
13:00-15:50

会場

富山大学杉谷キャンパス
講義実習棟 **大講義室**
(富山市杉谷2630)

参加費

小児関連職者 1,000円
(医師,看護師,保育士,教諭,
行政関係等)
一般参加者 無料

学会長 ▶ **桶本 千史** (富山大学学術研究部医学系小児看護学 准教授)

13:00-13:10 ● 開会挨拶
13:10-13:20 ● 総会
13:20-14:00 ● 一般演題
14:10-15:50 ● シンポジウム

事前参加申し込み不要

河尻 茂明 (富山県厚生部障害福祉課 課長)
山川 俊幸 (富山県教育委員会 県立学校課特別支援教育班 班長)
大坪 幸代 (富山大学附属病院周産母子センター NICU看護師長)
竹田 里衣 (社会福祉法人くるみ 看護師)

本学会は、日本小児科学会専門医制度研修集会および日本公衆衛生学会認定専門家研修会、社会医学系専門医・指導医講習会です

主催 富山県小児保健協会

後援 公益社団法人日本小児保健協会
公益財団法人富山県ひとづくり財団
富山県教育委員会

お問合せ 富山県小児保健協会事務局

〒930-0194 富山市杉谷2630
富山大学医学部小児科内
TEL 076-434-7313 FAX 076-434-5029

第 62 回 富山県小児保健学会

こどもたちの Well-being

— 医療的ケア児等の総合的な発達を後押しする支援 —

プログラム・抄録集

日 時

令和 5 年 10 月 1 日（日） 13：00～15：50

場 所

富山大学杉谷キャンパス講義実習棟 1 階 大講義室
（富山市杉谷 2630 番地）

学 会 長

桶本千史（富山大学学術研究部医学系小児看護学 准教授）

プログラム

挨拶	13：00～13：10
総 会	13：10～13：20
一般演題	13：20～14：00
シンポジウム	14：10～15：50

参 加 費

正会員 無料

小児保健関連職者 1,000 円

医師、歯科医、看護職者、リハビリテーション関連職者、保育士、
幼稚園教諭、養護教諭、小・中学校教諭、心理士、行政関係者等

一般参加者（保護者等） 無料 ※事前申込不要

- 受付は会場入り口前にて 12：30 より行います。
- 新規入会希望の方は受付にてお手続きください。
- 13：10 から総会を行います。正会員の皆様のご出席をお願いいたします。
- 本学会は、日本小児科学会専門医制度研修集会（新制度）および日本公衆衛生学会認定専門家研修会、社会医学系専門医・指導医講習会です。

主催：富山県小児保健協会

後援：公益社団法人日本小児保健協会、公益財団法人富山県ひとつづくり財団
富山県教育委員会

【 挨拶 】

13 : 00 ~ 13 : 10

支部長 嶋尾こどもクリニック

嶋尾 智

学会長 富山大学学術研究部医学系小児看護学

桶本千史

【 総会 】

13 : 10 ~ 13 : 20

令和 4 年度活動報告・会計報告

【 一般演題 】

13 : 20 ~ 14 : 00

発表 7 分・質疑応答 3 分

座長 富山大学教育学部

宮 一志

1 富山県「子どもほっとライン」の取り組みー利用実態の変化に着目してー

井上真理子¹⁾, 土田暁子¹⁾, 浜崎景^{1,2)}, 稲寺秀邦¹⁾

1) 富山大学医学部公衆衛生学講座 2) 群馬大学大学院医学系研究科公衆衛生学分野

富山県「子どもほっとライン」の相談機関の特徴を報告し、過去 10 年間の相談件数の動向、相談時間帯、相談者性別および年齢について報告を行う。

2 子どもの発熱に対する就労中の母親の認知的評価に関連する要因の検討

青山裕紀¹⁾, 桶本千史²⁾, 亀谷茉里子²⁾, 長谷川ともみ³⁾

1) 堺市健康福祉局健康部健康推進課 2) 富山大学学術研究部医学系小児看護学

3) 富山大学学術研究部医学系母性看護学

本研究の目的は、子どもの発熱に対する就労中の母親の認知的評価とその関連要因を明らかにすることである。COVID-19 第 8 波時において、A 市の公立保育施設 24 か所に通う年中・年長児の母親を対象に、認知的評価測定尺度(鈴木ら, 1998)を用いて得られた結果を報告する。

3 中高生女子スポーツ選手のエネルギーおよび各栄養素等摂取量の状況について

藤本孝子¹⁾, 西村柚葉²⁾

1) 富山大学学術研究部教育学系 2) 富山大学附属病院

中高生女子スポーツ選手の食事調査結果を用いて、エネルギーバランスおよび各栄養素の摂取状況について実態を捉えることを目的に検討した結果、カルシウム、鉄、食物繊維の充足率が 70%に満たないものが約 30 ~ 40%認められた。

4 医療的ケア児の療育支援に関する文献研究

大井涼斗¹⁾, 貝森由実¹⁾, 北澤日陽里¹⁾, 関かえで¹⁾, 高松龍之介¹⁾, 常山晴香¹⁾, 亀谷茉里子²⁾, 桶本千史²⁾

1) 富山大学医学部看護学科 2) 富山大学学術研究部医学系小児看護学

国内における医療的ケア児の療育支援として、どのような現状と課題があるかを明らかにすることを目的に文献研究を行った。海外における Children with medical complexity への支援と比較し、国内の医療的ケア児に対する今後の支援について考察する。

『こどもたちの Well-being —医療的ケア児等の総合的な発達を後押しする支援—』

1 富山県における医療的ケア児等及びそのご家族への支援について

河尻茂明

富山県厚生部障害福祉課 課長

医療的ケア児及びその家族に対する支援に関する法律が、令和3年9月に施行された。この法律において、国や地方公共団体が、医療的ケア児及びその家族の支援を行う責務が明文化されたことなども踏まえ、富山県では関係機関等と連携しながら重症心身障害のある方や医療的ケアの必要な方、その家族が地域で安心・安全に生活できるよう、医療、保健、福祉、教育等による支援の充実に取り組んでいる。今回、富山県における医療的ケア児等の状況や支援の取組について報告する。

2 学校における医療的ケア実施体制の充実について

山川俊幸

富山県教育委員会県立学校課特別支援教育班 班長

初めて県立学校において看護師による医療的ケアを実施した平成16年度から、20年目を迎えた本年度までの医療的ケア実施体制充実に向けた取組を、ヒト・モノ・実績・連携などの視点から整理してご説明します。

3 周産母子センターでの医療的ケア児の退院支援について

大坪幸代

富山大学附属病院周産母子センター NICU 看護師長

富山大学附属病院 NICU・GCU は地域周産母子センターとして、高度な新生児医療を提供するとともに、早期から家族に寄り添いながら一緒に子育てに参加している。全国の出生率低下が続いているが、当院のハイリスク妊娠、帝王切開率は増加傾向である。

NICU・GCU では発達・愛着形成のため早期から週数に応じた様々な支援を行っている。特に医療的ケアを持ち帰る児と家族に対しては、それぞれが成長し安心して生活できるように支援している。

4 医療的ケア児と家族の暮らしを地域で支える

竹田里衣

社会福祉法人くるみ 看護師

「子どもと家族の豊かな暮らし」を応援！在宅生活を送る医療的ケア児とその家族との関わりについて。医療的ケアが必要なお子さんの初めての母子分離から、地域の保育園や学校への移行と、母親の復職に向けての事例紹介。子どもの成長・発達と母親の気持ちの変化も合わせて、くるみの関わりや看護師としての役割を伝える。

5 総合討論